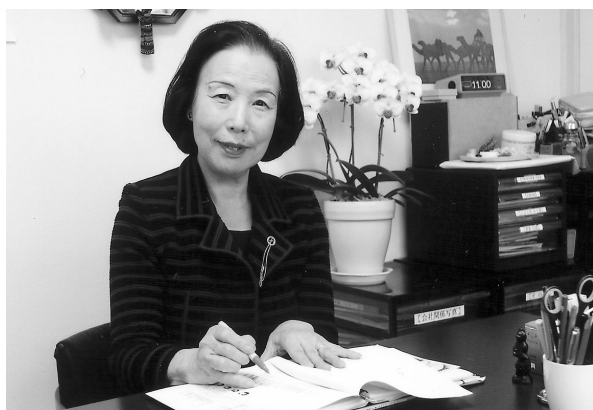


「切に生きる」

山形商工会議所女性会元会長

本郷 和枝



『切に生きる』一。一瞬一瞬ひたむきに生きる。

私がこの仏教のこたばを知ってから30年近くになります。人生は片道切符、ならばその舞台の上で最期まで一生懸命に自分を演じようと心に決め、ひたむきに生きてまいりました。

昭和35年12月22日、雪深い寒い日、私は生後3か月の乳飲み子を抱いて山形駅に降り立ちました。22歳の時です。夫(現会長富也氏)は仙台市に本社を置くコーヒー卸問屋『萬國社』の社員。山形に営業所を出すことになり初代所長に抜擢されたのです。

営業所といっても木造2階のバラック同然の建物。七日町のバー『ボルドー』並びの間口1間半、奥行き5間。2階が住まいと事務所、1階に焙煎(ばいせん)機を置きました。冬は肉や魚をザルに入れて物干し竿に吊り下げ、冷蔵庫の代用にしていました。夫と3人の営業社員は、県内のデパート、喫茶店、レストランに車を走らせ、女子事務員は店番を兼ねていました。ちょうどコーヒー人口が急増した時代。街角に次々と喫茶店が開業し、業績もうなぎ上りで、私は事務はもとより見よう

見まねで商品を覚え、お得意先の喫茶店『ぶるー』や『幸』に子供をおぶって自転車で配達して回るようになりました。

その後、独学で調理師、インテリアデザイナーの資格を取得。元々、父が戦前、室内装飾の仕事をしており、その影響もあったのでしょうか。喫茶店を開業したい、という方のために東北で初めてコーヒースクールを開講しました。コーヒーのおいしい入れ方、豆の見極め方、味の特徴といった基本的なことだけでなく、店舗デザインや内装もアドバイスしてあげたい、と思ったのがきっかけです。夜、子供たちが寝静まった後、図面を広げ、製図やパースを何度も描いて勉強しました。仕事、家事、子育て、コーヒー教室と眠る暇もないほどの忙しさ。その後、インテリアプランナーの資格も取りました。「女だから」という言葉を嫌った父の影響もあるのでしょうか、私は前向きに仕事をする人間には男も女もないと思っております。暖簾分けしていただき、独立して間もないころ、夫と別れ3人の幼児を抱えた女性が面接に来ました。実母と姉が3人の子供の世話をしてくれるということです。当時は託児所など全くありません。彼女の働きたいという(ひたむきな気持ち)に強く打たれ、採用。商品知識やメーカーとの交渉力を求められる商品課長を勤め上げ、昨年、70歳で退職。40年に及ぶ長い年月でした。皆さまのおかげで、『(株)山形萬國社』(現東北萬國社)設立以来50年。昨年12月には三浦記念賞をいただく栄にも預かりました。山形に住んで52年。ようやく山形の市民権を得た思いです。

その私の目に生まれ故郷の信じられない光景が飛び込んで来ました。『東日本大震災』です。私は18歳の時まで石巻に住んでいました。私を可愛がってくれた叔父(母の弟)が自宅で津波の汚泥に埋まって亡くなりました。90歳でした。海岸続きの寺が大津波に襲われ、先祖伝来のお墓13基が消失してしまいました。墓のあった辺りには松の木が1本残っているだけ。がれきが処理された昨秋、そちこちに散乱していた墓石が見つかり、再建することができました。しかし、復興はまだまだです。被災地は厳しい冬の真ただ中にあります。私の親友は津波で娘を失い悲しみに耐えながらも、忘れ形見の孫3人を夫と2人で懸命に育てています。また、名取に住む弟の家は地震で全壊、家族全員助かっただけでも幸いでした。私が会長を務めさせていただいた山形商工会議所女性会も皆さんも手を差し伸べてくれています。私も微力ながら皆さんとともに、支援の輪を力強く広げていきたいと思っています。

(株)東北萬國社代表取締役社長